

第1回総合衛生学院移転候補地の利活用検討会会議録

日時：平成31年4月25日(木)13:30~16:00

場所：神戸市都市局新長田現地事務所 会議室

※この会議録について

開会、あいさつ、会長の指名、委員紹介、資料の説明については省略するとともに、事務局等の説明内容や各委員等の発言内容は一部要約しています。

■議 事

(1) 報告事項

- 1) 総合衛生学院の概要及び検討会の趣旨について、事務局より説明。(資料1・2)
- 2) 移転候補地及び周辺地域の概要について、神戸市より説明。(資料3)

(2) 視察

移転候補地周辺地域を視察。

(3) 意見交換

(事務局から、県立総合衛生学院移転候補地の利活用方策案について説明(資料4))

〈委員〉

- ・視察を通して感じたことは、国道2号線を渡ることは心的に大きなものがあるという印象を受けた。地下を通る場合にはそれほど感じなかった。やはり目的を持った施設でないと、なかなか来てくれないのではないかと。
- ・一方で、教育施設は持ってくる施設として、良いのではないかと思う。常盤大のKITのように、大学の分校やどこかの大学から専門職学部を持ってくるといったことは可能だと思う。
- ・目的を持ってきてもらう、集客に着目するのであれば、文化的な施設が好ましい。ミニシアター(演劇)やある程度の規模のコンサートができるようなミニコンサート場といったものがあれば、敢えて目的を持って道路を渡ってもらえるのではないかと。

〈委員〉

- ・代官山に蔦屋(蔦屋書店を中核とした生活提案型商業施設)があるが、そのイメージで、緑があり、子供の遊べるスペースが設けられた図書館が良いと思っていた。しかし、神戸市立中央図書館があり、そこは緑も多く、同じようなものを長田で作ってもどうなのかとも思う。
- ・図書館には様々な人がくる。本を読むだけでなく、すぐ横では遊べるというような

ものが理想。本を読む人のそばで遊ぶのは、騒がしいという問題もあるが。

〈委員〉

- ・ターゲットを定めるべき。女性がいいのでは。また、総合衛生学院には助産学科もあるので、生み育てる支援+子供の遊び場というものがあればいいと思う。県立では、姫路に「こどもの館」というのがある。神戸阪神間には、子供の拠点になるような施設がないので、女性をターゲットにするなら、資料4にある子育て支援施設がいいのではないか。保育園は少し固いので、こういったものはいらんと思うが、「生み育てる」支援+遊びの空間、あるいはアニメーションなどで集客ができれば。
- ・または、ターゲットを中高年層にして、「健康」をキーワードに、企業を巻き込んでいく。「健康」をコンセプトにした空間を作り上げる。行政と民間企業がコラボレーションしやすいのではないか。
- ・このようなコンセプトにすれば、総合衛生学院の役割もある程度、踏襲しながら取り組めるのではないか。

〈会長〉

- ・ターゲットを考えた時に、それは地元民なのか、わざわざ電車に乗って来る方たちをこれから開拓していくのか、考えないといけない。
- ・また、人を西へ連れてくるというのは難しい。三宮か大阪に行けばいいという話になる。わざわざ長田にくるという動線が想定しにくい。
- ・土日に来てもらうなら、駐車場が必要ということもあるし、どこにターゲットを設定するのは難しい。
⇒神戸市が考えるターゲット層は、地元の賑わいという観点から言えば、外から来てほしいと思っているのではないかなと個人的には感じている。(委員)

〈委員〉

- ・総合衛生学院の役割も生かすのであれば、子育て支援がひとつ考えられると思う。中央区でも小さい子供を連れて行けるところが少ない。そういった施設を持つことで、総合衛生学院は看護学科もあるので、実習的な意味も含めて、また、安価でそういった部分を支えていくマンパワーにもなるし、地域の子育て力を育てていける人材にもなっていけるのではないか。ただ、その場合のターゲット設定は地元の方になる。地元の方にも参画してもらい、子育て支援環境スペースをつくるという形で、神戸市や長田区に知恵をいただきながら、連携していければいい。
- ・歯科衛生と介護と看護が一体となって、他職種連携あるいは様々なサービスを提供できるカリキュラムがとれれば。総合衛生学院の中だけではなく、そこに県下で働いている方も実習できる拠点的な形で、機能を果たすことができる、そんな施設があれば。

〈委員〉

- ・現在、一番の課題は在宅医療、看護、介護をどう支えていくのか。免許を持っている人がシミュレーションできる拠点が無いので、そういった拠点になればいいと思う。
- ・最近では、介護支援ロボットがあるが、現場で勤務する方の中には、その存在を知らなかったり、使ったことがなかったりする。たとえば、介護ロボットを作っている企業と連携し、そこに行けば実際にロボットに触れる、使える。さらには言語機能も付加できるのであれば、外国人も増えてくる、そんな空間ができれば。
- ・保健師が足りない。基礎教育の内容が増えてきており、大学の中で必要量をカバーするのは難しいということで、大学院教育としているが、大学院2年となるとそれもハードルが高い。大学のサテライトとして、保健師学科1年コースのようなものがあればいい。

〈会長〉

- ・塾が少ない。西宮北口でも多くあるが、人は集まってくる。ただ、そこまでの集客力がこの長田であるかどうか。
- ・タワーマンションがあまりないという印象があった。
- ・ホテルは圧倒的に足りないと思う。今後や交通アクセスのことを考えれば、必要だが、あの場所では狭いか。
⇒何階建てを想定しているのか。(委員)
⇒建蔽率等も考えると8階程度が想定される。(事務局)

〈委員〉

- ・総合衛生学院は学生しか来ない。新長田合同庁舎も新たに完成するが、あらゆる層が訪れることにはならない。そういう意味では、+αで民間的要素を加え、様々な人が集まるような拠点を作ることが新長田にとっては良いのではないかと。

〈会長〉

- ・アートは難しいと思う。特定の人、アート好きな人は限られている。
- ・どうやって人を呼び込むか考えるよりも、新しい人を海外から取り込む。ベトナムタウンを作るくらいのつもりで。ベトナム人が住みやすい、あるいはベトナム人と日本人が共生できる空間、日本の生活に適応するための支援・訓練施設はどうか。これからの多文化共生、自分の言語も分かる、文化も分かる、かつ日本の生活も出来るというような、ユニバーサル社会、それが長田の新魅力になるのではないかと。
- ・空飛ぶ自動車が開発されつつあるそうだが、そういったイノベーション。とにかく新しいものが長田からはじまっているということが大事。これまでの長田のイメー

ジを払拭しなくてはいけない。

〈委員〉

- ・ A I、 I T、外国人育成などは、総合衛生学院とも馴染みが良いのではないか。
- ・ 駐車場についても 1カ所に集約するのではなくて、ほかのエリアにもほしいという声もある。

〈会長〉

- ・ 県も神戸市もそうだが、福祉人材が不足している。研修を増やしても、人材を増やすという観点から見ればなんの意味もない。抜本的な取組が必要。

〈委員〉

- ・ 今回、総合衛生学院を移転するという事で、空いたスペースをどうするのかという議論だが、神戸市がどういう「まち」にしたいのか、ある程度示したうえで検討していくことも必要。

〈会長〉

- ・ 神戸市の計画を踏まえ、かつ総合衛生学院の中長期の計画、そのすり合わせが必要ではないか。

〈事務局〉

次回は事務局から事務局案を作らせていただき、それをたたき台にして、検討していただきたい。事務局案は、県と神戸市と十分連携し作成する。

(4) 今後の進め方

(事務局から、今後の進め方について説明)

(5) 閉会